

中国 チベット自治区のリンゴがシンガポール向け初出荷へ

[FreshPlaza](#) 2025年7月10日

中国南西部のチベット自治区ニンティ市ベパ区にあるリンゴ産地で、リン・チュアンチン氏は標高3千メートルを超える場所に位置する地元のリンゴ企業を監督している。(以下「」は同氏の話)

「海外から注文の波が押し寄せた。」以前はネパールにリンゴを輸出していた同社は、今年中にシンガポールに初めての出荷を行う予定である。

「このリンゴは海外市場で好まれている。」同氏の事業は、4千ムー(約266.6ヘクタール)を超える果樹園を管理している。昨年、彼らはネパールに490トンを輸出し、今年は既に137トン以上を出荷した。

リン氏が3年前にチベットに来た時、リンゴ部門は初期の段階にあった。地元の人々は基本的に裏庭で採れたリンゴを選別せずに販売し、売れ残った農産物は素掘りの貯蔵穴にビニールのカバーを掛けて保管されていたため、貯蔵期間はわずか2カ月に制限されていた。

リン氏の会社はそれ以来、苗木の研究開発からコールドチェーン物流までの包括的な産業的チェーンを確立するため、約2,200万ドル(1億5,800万元)を投資してきた。

高原で栽培されたリンゴは、強い日差しと昼夜の大きな温度差により、甘みと硬さの両方が向上するという顕著な利点がある。

「この同じサイズのリンゴは、同じ品種の他のリンゴよりも15%重く、最盛期には収穫量が3トン/ムー(4.5トン/10a)に達する。」さらに、糖度は12%に達し、ビタミン含有量は標準的なリンゴよりも30%多い。

広大な地理的条件と高い輸送コストという課題にもかかわらず、ここでのリンゴ栽培は依然として費用対効果が高い。地元企業は、政府の輸送費補助金の恩恵を受けている。

「ニンティ市から中国南部の広東省へのリンゴの輸送費は、中国東部の山東省から広東省への輸送よりも安い。これは、補助金が輸送コストのほぼ半分をカバーするためだ。」

また、この地域では病害虫の問題も少ない。病害虫の予防のために1kg当たり約0.17ドル(1.2元)の費用がかかる労働集約的なリンゴの袋掛けを必要とする他の産地とは対照的に、チベットでは農薬の使用が最小限に抑えられる。

「チベットでは、リンゴに袋掛けする必要はなく、農薬の使用も最小限に抑えられる。」ニンティ市のリンゴは、EUの残留農薬基準を満たしており、またグローバルGAPの認証を取得している。乾燥リンゴから残留物は検出されていない。

これらのリンゴは、糖度、サイズ、色に基づいて16の等階級に分類され、現在、世界市場に向けて出荷されている。山南市^{シャナン}ドラナン県及びチャムド市にある果樹園が加わり、チベット産リンゴの出荷先が拡大している。

リン氏は「リンゴが熟す11月には、シンガポールの消費者はニンティ市のリンゴを味わうことができる。」と締めくくった。

出典: ChinaDaily

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)